



公益社団法人
東京都理学療法士協会

都士会 News

2025.12.1 発行
◆発行 公益社団法人
東京都理学療法士協会
◆発行人 豊田 輝
◆編集人 井出 大
医療法人社団永生会
法人事部 地域支援事業部
〒193-0942
八王子市鴨田町 590-4
TEL :042-661-4025



contents

動画配信管理委員会	2 ~ 3	スポーツ局人材育成部	34 ~ 35
東京都理学療法士協会部局紹介（地域活性局）	4 ~ 5	ライフサポート部	36
災害対策委員会	6	理学療法関連機器開発委員会	37
エスカレーターマナーアップ推進委員会	7	広報局外宣部	38 ~ 39
地域活性局	8 ~ 20	健康増進部	40 ~ 41
スポーツ局スポーツ支援・推進部	21 ~ 29	学術局学術誌編集部	42 ~ 43
スポーツ局子どもの健康・安全部	30 ~ 33	編集後記	43

都士会員無料！

2026年4月
スタート
(予定)

PC
スマホで
アクセス

かんたん
無料登録



動画配信サービス開始！

動画で“理学療法”をアップデート

複数のコンテンツを配信予定！

- ・評価法の復習動画
- ・基本的な疾患のおさらい
- ・各分野で活躍する先生の講義
- ・etc...



動画を視聴して、スキルアップを目指そう！

あなたが見たい疾患の解説や評価動画をリクエストください▶



公益社団法人
東京都理学療法士協会

問い合わせ先
動画配信管理委員会
tpta-vcm@googlegroups.com



動画リクエスト募集

あなたの声が教材になります！

リクエストは
QRコードをスキャン



問い合わせ先
動画配信管理委員会
tpta-vcm@googlegroups.com



公益社団法人
東京都理学療法士協会

こんな動画
を見たい！

- 評価法をおさらいしたい
- 脳卒中の治療法を知りたい
- ○○先生の講義を聞きたい

・・・等々

皆様のリクエスト
お待ちしています！

本協会は 2006 年 2 次医療圏をもとに 6 ブロック化し、2014 年より区市町村支部化を開始、そして 2020 年に東京都の 62 区市町村すべてに支部が発足しました。

各部では区市町村事業参加、研修会、調査等を実施し、地域活性に寄与する活動を行っています。地域活性局はブロック部の活動を統括しています。



業務執行理事 中澤幹夫
(多摩丘陵リハビリテーション病院)



図 1 地域活性局ブロック部 (島しょ支部除く)



局長 知脇 希
(帝京平成大学)



次長 ト部吉文
(大橋病院)

区中央部・区南部・島しょ部ブロック部

東京都の中央部に位置する 3 区と、臨海地域に接する 4 区、そして伊豆諸島と小笠原諸島を含むブロック部です。他ブロック部と同様に都士会が目途とする、各支部ごとの都士会員の交流や知識の共有を素地として、都民の方々への地域貢献に資する活動を、地域の特性に応じて実施しております。

当ブロック部は各支部活動を支援することはもとより、ブロック部研修会とあわせて症例検討会を開催し、専門的な知識等の研鑽と共に、生涯学習制度を履修できる機会を設け、多様化するニーズに応えうる理学療法士を育成に寄与したいと考えております。

また島しょ部という都下でも特異的な地域特性を踏まえ、その地で理学療法業務に従事している方々との情報共有を図りながら、都士会としての役割=地域貢献を試行錯誤している現況にあります。

区東北部・区東部ブロック部

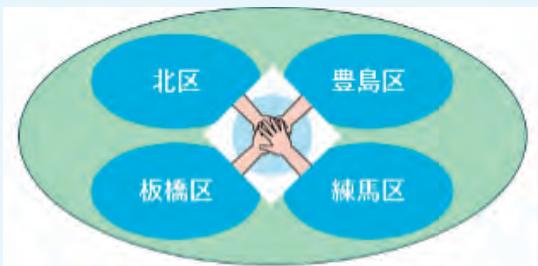
年度 (5/18) に東京都立大学荒川キャンパスにて症例検討会 (5 症例) を行いました。募集 100 名に対し開始 5 日で満席となり関心の高さを実感しました。ご参加ありがとうございました。



来年度 2026 年 9 月 13 日には同キャンパスにて東京都理学療法学術大会を開催します。テーマは「人を見る理学療法の原点に立ち返る—専門性の深化と連携による予防・健康増進への挑戦—」。古川大会長を中心に準備を進め、若手の皆様の参加を特に歓迎し、大会内で症例検討会も実施予定です。参加募集は来年度になりますが多くの皆様のご参加をお待ちしております。

区西北部ブロック部

13人のブロック部員と48人の支部員で



都学会やブロック学会の運営、会員向け研修会、
介護予防事業、ウィメンズヘルス、小学校での授業、
イベントでのブース出展、マラソン大会のサポートなど



北多摩ブロック部

北多摩ブロック部は清瀬リハ学院（通称）や社会医学技術学院など歴史ある学校があり、日本の理学療法を長きにわたり支えてきた地であります。北多摩北部、南部、西部の3つの二次医療圏の計17市からなり、15支部で事業を実施しております。ブロック部の特徴的な事業として、長年「北多摩ブロック部吸引セミナー」を開催しております。その内容は日本PT協会の「吸引プロトコール」をもとに、講義と実技形式で実施し、近隣県からの参加があるなど毎年盛況を収めています。

区西南部・区西部ブロック部

渋谷・新宿・杉並・中野・目黒・世田谷で勤務する理学療法士で構成されるブロックとなります。

当ブロック部では、地域に根差した連携づくりと、生涯学習の活性化を目的に活動を行っております。



2026年度は、地域住民の健康づくり支援として「肺年齢測定会」および「呼吸リハビリ啓発活動」を企画し、各区と協働した予防的アプローチの強化を進めていきます。その他、地域住民・地域の多職種との連携を強化し、暮らしやすい街づくりにも貢献していきます。

第43回東京都理学療法学術大会
(2024年9月14・15日)

西多摩・南多摩ブロック部

西多摩・南多摩ブロック部は、東京都理学療法士協会の中で最も広いエリアを担当しており、東京都の約4割の面積を占めています。11の支部で構成されますが、各支部の規模も地域性、事情も多様です。ブロック部では、これら各支部が行う地域事業や研修活動の支援やとりまとめを行っています。

西多摩・南多摩ブロック部 部長 渡田 賢二（平川病院）

町田市支部	支部長 永見直明（多摩丘陵リハビリテーション病院）
八王子市支部	支部長 渡美幹子（東京医科大学八王子医療センター）
福生市支部	支部長 高橋 匠（介護老人保健施設 ユーアイピラ）
羽村市支部	支部長 佐藤文輔（羽村三慶病院）
青梅市支部	支部長 長 正則（高木病院）
あきる野市支部	支部長 柴崎 大介（あきる台病院）
瑞穂町支部	支部長 佐藤雄介（介護老人保健施設 葉の花）
日の出町 奥多摩町 檜原村支部	支部長 河野 博之（大久野病院）
多摩市支部	支部長 山口青子（東京医療学院大学）
日野市支部	支部長 小林健一（康明会ホームアクリニク）
稻城市支部	支部長 松永 謙（稻城市立病院）

本ブロック部としては、今年度は介護予防キャンペーンを実施し、さらに1月には研修会と症例検討会を予定しています。多様な地域特性に応じた取り組みを通じ、地域に根ざした理学療法の推進と、理学療法士の連携体制の強化に取り組んでいます。

今後も、支部間の協力を深め、地域の理学療法の発展に貢献してまいります。

令和7年度中野区総合防災訓練 参加報告

- 日 時：2025年11月16日（日）9:00～12:00
- 会 場：中野区立第二中学校
- 形 式：ブース出展…生活不活発病予防・災害関連死予防のための資料展示・配布
- 対 応：中野区支部
- 所 感

各町会の方々や関係する医療機関・団体の皆さんと共に防災について学ぶ貴重な機会となりました。来場者からは「日頃からの備えが重要ですね」といった声が多く聞かれ、防災意識の高さを実感しました。また、他団体の出展内容も大変参考になり、多くの学びを得ることができました。今回の参加を通して、理学療法士の認知度向上に努めるとともに、地域に貢献できるよう引き続き取り組んでいきたいと考えています。

**令和7年度三鷹市総合防災訓練 参加報告**

- 日 時：2025年11月16日（日）10:00～12:00
- 会 場：新川中原コミュニティ・センター
- 形 式：ブース出展…生活不活発病予防・災害関連死予防のための資料展示・配布、段ボールベッド体験
- 対 応：三鷹市支部
- 所 感

出展スペースが限られていたため多くの方に対応することは難しい状況でしたが、来場者の防災意識は高く、理学療法士の被災地での活動や支援要請の方法について多くの質問をいただきました。また、フレイル予防の運動指導に対しては「日頃からの体力維持も防災対策になりますね」という声が寄せられました。段ボールベッドの実物展示も好評で、「ベッドがあるだけで快適さが全然違いますね」といった感想をいただきました。



第44回 東京都理学療法学術大会 活動報告

会期：2025年9月7日(日) 会場：杏林大学 井の頭キャンパス

第44回東京都理学療法学術大会にてエスカレーター利用者が安心・安全に利用できるよう「歩かず立ち止まる」、「手すりにつかまろう」など呼びかける活動を実施しました。

大会長の寄本先生もお越し頂き、また今回ご参加して頂いておりました患者支援団体の皆様にもご挨拶、当委員会の趣旨など意見交換もさせて頂ける機会となりました。理学療法士のみなさん、理学療法士を目指している学生さん等への周知活動も重要と考えております。多様性を認め合う共生社会を目指し、安心・安全なエスカレーターの乗り方、止まって乗りたい方がたくさんいることが広く周知できるよう引き続き活動していきます。

報告者：村田敬明（大久野病院訪問看護ステーション）



座談会開催の活動報告

日時：2025年11月8日(土)

夏休みに行った子どもイベント「共生社会ってなんだろう？」の振り返りとして、参加者してくださった子どもたちと、座談会を行いました。去年・昨年と参加してくれた小学生や、今年はじめてボッチャ指導者として参加してくれた高校生と、様々な話をしてイベントを振り返ることができました。

小学生の立場、高校生の立場から、イベントでどんなことを感じて、今どんな考えが生まれたなどの貴重な意見が聞けました。わたしたちも改めて、理学療法士の視点から、共生社会について考えることができ、それをエスカレーターの乗り方などを通して伝えていくことの意義を再確認できました。この座談会の内容は、記事にしてまた皆様にお届けできればと思います。

報告者：石川 愛香（森山脳神経センター病院）

<エスカレーターマナーアップ推進委員会>

- 各種お問い合わせ (Mail) : esca.pttokyo@gmail.com
- エスカレーター マナー 動画公開 : <https://youtu.be/MRBqxaKEEMM>
- Facebook URL : <https://goo.gl/nnXZcQ>
- X (旧 Twitter) : URL https://twitter.com/tomanoru_esca
- まんが教材 特設 HP : <https://www.pttokyo.net/esca/>



<特設 HP QRコード>

区西北部ブロック部 いたばしウォーキング大会における体力測定・運動器の相談会実施報告

日時：令和7年11月3日（月）

場所：東京都板橋区 中板橋商店街会館

対象者：いたばしウォーキング大会参加者（板橋区民）

参加者：板橋区民 1123名（内ブース参加者 130名）

サポートスタッフ：11名

内容：

板橋区民 1123名がいたばしウォーキング大会に参加され、全長約 13km のコースを 800名以上の方がゴール地点まで完歩されました。我々東京都理学療法士協会のブース活動は、チェックポイントである中板橋商店街会館で行い、約 130名の方に寄って頂けました。活動内容としては、コンディショニング対応・身体相談会を主に実施し、多くの参加者からお礼のお言葉をいただきました。普段から運動習慣のある方でも、疼痛を抱える等身体に関するトラブルを抱えている方も多く、改めて理学療法士が地域活動に参加し、解決できる早期の段階から予防的サポートに入る重要性を再認識いたしました。参加者とのお話の中で、「リハビリテーション」という言葉はある程度浸透している印象はありましたが、「理学療法」という言葉はまだまだ浸透が不十分な印象を受けました。我々の専門性を発揮できる活動の場を広げることで、職域の拡大・困っている都民の方々に還元できることも多くあるかと感じます。引き続き、区西北部ブロック部板橋区支部では、都民や会員のためになる活動を、地域の方々のニーズを考えながら、意義のある企画や活動を展開していきたいと思います。



報告者：遠藤 洋平（医療法人社団 健育会 竹川病院）

**区西北部ブロック部 板橋区支部
第3回板橋区糖尿病予防デー参加報告**

日時：令和7年11月1日（土）

場所：板橋区立グリーンホール

参加者：約90名 体力測定者：35名

サポートスタッフ：8名



内容：今年で第3回となります板橋区糖尿病予防

デーですが、例年通り板橋区立グリーンホールで開催されました。糖尿病予防に興味のある市民の方々が参加され、理学療法士ブースでは、体力測定（握力・5回椅子立ち上がりテスト・転倒リスクチェック）を実施し、フィードバックを行いました。また、日本理学療法士協会が作成した理学療法ハンドブック「糖尿病」を用いて健康啓発を行いました。今年は、1階、2階両方を使った会場であったため、講演会場の2階で13時半と14時と2回に分けて、運動の実演も行いました。体力測定や実演の参加者は熱心に参加され、糖尿病予防や管理のために理学療法士が担う役割が大きいことを再度実感しました。



報告者：大沼 剛（板橋リハビリ訪問看護ステーション）

区西北部ブロック部 豊島区支部 ウィメンズヘルス：地域における産後女性向けの相談会活動報告

令和7年9月19日 講師：片見奈々子（まつおか整形外科クリニック）

- ・場所：区民ひろば千早
- ・対象：親子15組（乳幼児15名、親18名）
- ・概要：

豊島区支部では昨年度より、ウィメンズヘルス事業として、地域における産後女性を対象とした相談会を継続して開催しています。

本相談会は、産後女性が抱える身体の悩みに対して、理学療法士が地域で健康相談を行う場として位置付けており、毎回多くのご相談を頂いています。

特に多い相談内容は、肩・腰・腕などの痛みに関するものです。整形外科や接骨院に通っていても改善に至らず、「どこに相談して良いかわからない」と感じている参加者が多いことが現状として伺えました。そこで本相談会では、姿勢評価や育児動作の確認を通して、理学療法士の専門性を活かした具体的な助言を行っています。

参加者からは

「痛みが姿勢や育児動作と関係していることは理解していたが、実際に身体を見てもらい具体的なアドバイスがもらえて良かった」

「忙しい母の立場に合わせ、日常生活に取り入れやすい運動を教えていただき、自宅でも続けやすい」といった声が寄せられました。

また、区民ひろば千早のスタッフより「子どもの成長や動きについても理学療法士に相談したい」という声が参加者からあったとのご意見を頂き、産後女性の不安が多岐にわたること、そして理学療法士に求められる役割の大きさを改めて認識する機会となりました。

今後は、産後女性への運動指導に加えて、親子双方が楽しみながら取り組める運動内容の考案にも取り組み、理学療法士の専門性を活かした場となるよう活動を継続してまいります。

報告者：片見奈々子（まつおか整形外科クリニック）

区区西北部ブロック部 豊島区支部 「パパと一緒にからだを動かして遊ぼう」講座を体験して ～理学療法士が伝える健やかな成長のヒント～

日程：2025年9月27日(土)、10月25日(土)、11月8日(土)

場所：豊島区 区民ひろば千早 (NPO 法人はばたけ千早)

参加者：2歳～未就学児のお子さんとお父さん（合計22組、46人）

講師：鈴木享之

アシスタント：酒井大将先生（山王リハビリ・クリニック）、向家知宏（浮間中央病院）

内容：

今年度5～7回目（全11回）となる「パパと一緒にからだを動かして遊ぼう」講座を開催しましたので報告します。アシスタントには、いつも共に活動している酒井先生と今回初めて参加して下さった向家先生と共に笑顔いっぱい楽しい活動をして参りました。

講座の内容は、いつも通りの身体の確認、そして感覚器に刺激を与える遊びをお父さんと一緒に全力で行う内容となっています。小休憩時には、理学療法士としての身体の見方をお伝えしています。また、子どもたちが目一杯遊べるように、お父さん達に“褒めまくる”ことの大切さをお話ししています。

今回から、前回の振り返りにて挙げられた相談活動について、良き理解者でもある依頼先の職員さんと協議した結果、会の終了後に30分程度「相談コーナー」を設けて頂ける事となりました。今回は2組ほど、子どもの特徴と興味ある遊び、そして更にどの様な遊びがおすすめかをお話することが出来ました。今後も酒井先生や興味を持って見学参加して下さる方々と共に、ブラッシュアップを重ね、子どもとパパが共に笑顔溢れる場所となる様、この会を更に良い形にして行きたいと思います。



報告者：鈴木享之（スポーツ局次長／長汐病院）

区区西北部ブロック部 豊島区支部 としま区介護予防大作戦×ピラティス

開催場所：としまセンタースクエア

開催日時：2025年10月16日(木)

12:00～15:00

スタッフ：

渡邊寿彦、犬塚遼太、樋原琴美、

竹脇知花、田中萌、守屋百花

会場来場者数：417人

(うちブース来場者：63人)



内 容：

今回、介護予防を目的に高齢者の方々を対象としたピラティス体験会を開催しました。

初の試みということもあり、「どの程度関心をもっていただけるだろうか」という不安もありましたが、実際には「ピラティスやってみたかったんです！」という声を多くいただき、予想を上回る参加がありました。椅子を用いた安全で取り組みやすいプログラムを実施し、ピラティスの要素を取り入れながら、呼吸や体幹の安定を意識した運動を行いました。参加者の多くが「身体が軽くなった」「姿勢が良くなつた気がする」と変化を実感していました。

ピラティスを介護予防に活かす意義は、「介護予防」という言葉には、どこか“まだ自分には早い”という印象を持つ方も少なくありません。しかし、「ピラティス」という言葉を用いることで、健康づくりの一環として前向きに参加できるきっかけとなりました。また、ピラティスには呼吸法やインナーマッスルの賦活といった理学療法にも通じる要素が多く、効果的な介護予防運動としての可能性を感じました。実施を通して見えた課題および改善点はセラバンドを使用した際、装着に時間と人手を要した点、また足趾を使うエクササイズでは靴下の着用が影響し、全員が十分に行えなかつた点などです。今後は裸足での参加案内やプログラム内容の再検討を行うことで、よりスムーズな進行を目指したいと思います。また、会場設営面でもポスターの掲示方法など、細部の工夫が必要だと感じました。

今回の活動を通じて多くの方にご参加いただき、短時間ながらも身体の変化を感じる手応えを得られたことは大きな成果でした。「もう少し長くやりたかった」という声もあり、今後はエクササイズの種類を増やし、シリーズ化して継続的に開催することも視野に入れています。

今回の経験を糧に、今後も地域の方々に楽しく効果的な介護予防の機会を提供していきます。

報告者：守屋百花（目白整形外科内科クリニック）

区西北部ブロック部 北区支部

【活動報告】理学療法士による介護予防体操教室

日 時：令和7年9月25日（木）

会 場：東京都障害者総合スポーツセンター体育館

講 師：渡邊祐介先生（東京脊椎クリニック）、

補 助：国分空以先生（浮間中央病院）、向家知宏

参加者：14名

内 容：

東京都障害者総合スポーツセンター 介護予防体操教室（第3回）

このたび、東京都障害者総合スポーツセンターの介護予防教室として、障害のある方々を対象に、今年度3回目となる体操教室を前回に引き続き実施いたしました。

今回は「タオルを使った運動」をテーマに、タオルを手に持しながら自動介助運動や等尺性収縮を取り入れ、全身を動かす内容といたしました。身近な家庭用品を活用した運動でありながら、「タオルなのに意外ときつい」といった感想も多くいただき、適度な運動負荷を感じていただけたようでした。

今後は、障がいの特性が多様であることを踏まえ、クラス内で2グループに分けて運動内容を調整するなど、より安全で効果的な工夫を重ねてまいります。

ご協力くださいました皆様に、心より感謝申し上げます。



報告者： 渡邊祐介（東京脊椎クリニック）

区西北部ブロック部 練馬区支部 【活動報告】学校保健事業

日時：令和7年10月8日（水）

場所：練馬区立橋戸小学校

対象者：3年生 29名×2クラス

講師：山柴恵（辻内科循環器科歯科クリニック）

青木直之（大泉生協病院）

アシスタント：理学療法士 2名

内容：

練馬区支部では小学校の養護教諭の先生より依頼を受け、学校保健事業として小学校での講演会や児童への授業を行っています。この度は、練馬区立橋戸小学校の3年生を対象に1时限ずつ姿勢指導の講義を実施しました。

講演内容としましては、前半は講義として「理学療法士について」「姿勢とは何か」「良い姿勢と悪い姿勢の違い」「悪い姿勢はどのような影響を与えるか」等についてスライドを用いながら説明を行いました。後半は実技として頭部の重さ体験や姿勢チェック、バランスチェック、良い姿勢のためのストレッチや筋力トレーニングの紹介等を行いました。

講義中は児童から積極的な発言や質問が聞かれ、日常の中で姿勢改善を行うための方法について考えられているようでした。

今後も小学校での学校保健事業を継続し、小学生に理学療法士の役割や活躍について知っていただくとともに、健康について関心を持っていただきながら、児童たちが実際に無理なくできる体操や運動を理学療法士として広めていきたいと考えています。



報告者：山柴恵（辻内科循環器科歯科クリニック）

区西北部ブロック部 練馬区支部 「第 48 回練馬まつり」 参加報告

開催日：令和 7 年 10 月 19 日（日）

開催場所：練馬駅北口周辺およびマロニエ通り周辺

参加者：理学療法士 16 名

主催者：練馬まつり推進協議会（練馬まつり運営スタッフ委員会、練馬区）

【概要報告】

理学療法を通じて都民の医療・福祉・保健の増進を目的に、「練馬まつり」に特設ブースを設置して参加させて頂きました。

内容としましては、握力の測定や柔軟性（立位体前屈）の検査、体組成の測定を実施し、身体状況のチェックを行いました。体組成については、In Body を用いて測定を行い、記録用紙を印刷したのち、筋肉量や体脂肪量、栄養評価等の結果をフィードバックして、各種予防や健康寿命延伸に向けた生活指導や健康相談を行いました。

当団は、昨年度に引き続き 150 人以上の方にご来場いただき、長蛇の列ができるほど大盛況でした。来場者の方からは、「今年も来ました」「アドバイスを守って来年いい結果が出せるように頑張ります」等の感想を頂きました。In Body を使った健康相談は 4 年目ということもあり、毎年年に 1 回の健康チェック目的で来場されている方も多くいらっしゃり、理学療法士の活動の一環として地域住民の方々の健康増進に寄り添い、継続的に手助けできているのではないかと改めて実感する事ができました。

練馬区支部では、今後も都民の方に向けて公益性のある事業を多く行っていきたいと考えております。引き続き、ご協力の程宜しくお願い致します。



報告者：慈誠会 練馬高野台病院 高柳竜馬

区中央部・区南部・島しょ部ブロック部 千代田区支部

研修会開催報告

日 時：2025年10月24日（金） 18:30～20:30

会 場：三井記念病院 外来棟7階

テマ：動脈血液ガス分析と呼吸機能検査をみる

対 象：一般都民 医療職 理学療法士

参加費：無料

講師：東京医療学院大学准教授 秋保光利先生

<開催内容>

講師に東京医療学院大学准教授秋保光利先生をお招きして、市民公開講座を開催しました。講演では、私たちの体がどのように酸素を取り込み二酸化炭素を排出しているのかという“呼吸の仕組み”をわかりやすい図や実例を交えてご説明いただきました。

日常生活や健康管理にも役立つ内容で参加された方からは、「呼吸の大切さを改めて実感した」や「とてもわかりやすかった」と好評をいただきました。区内医療機関に従事するセラピストを中心に多くの方に参加していただき、講演後は質疑応答でも多くの質問が寄せられ、活発な意見交換もあり大変有意義な講演となりました。



報告者：浅香貴広（九段坂病院）

区中央部・区南部・島しょ部ブロック部 大田支部

区民スポーツ祭り 参加報告

日時：2025年10月13日（月）

会場：蒲田地区：萩中小学校、大森地区：大森第二中学校

参加人数：蒲田地区：75名、大森地区：77名

参加スタッフ：蒲田地区 4名、大森地区 6名

【内容】

今回の活動では主に健康体操、健康相談、血圧測定の3つを実施しました。

この度の活動では、特に活気あふれる雰囲気の中で健康体操を実施し、「とても良い時間になった」というお声も頂戴いたしました。また、ご自身の状態を確認するための血圧測定を実施するとともに、理学療法士の専門的な視点から健康相談を行うことで、具体的な健康管理をサポートいたしました。

今年も昨年に引き続き参加されている方もおられ、この活動が皆様にとって楽しみの行事の一つとなっていることが伺えました。

今後も、皆様の健康と活力を支えるために、本活動を継続して実施していきたいと考えております。



報告者：高橋 悠輔（池上総合病院）

西多摩・南多摩ブロック部 症例検討会及び研修会のお知らせ

この度、西多摩・南多摩ブロック部では症例検討会＆研修会を行います。皆様ぜひご参加下さい。

【開催概要】

日時：令和8年1月17日（土）

・14:30～（予定）症例検討会 参加費：無料

・18:00～19:30 研修会 日本理学療法士協会員：1,000円

講 師：松田雅弘 先生（順天堂大学 保健医療学部 理学療法学科 教授） テーマ：『脳卒中患者の装具療法』

場所：東京たま未来メッセ（京王八王子駅から徒歩2分）

※詳細は都士会 HP「講習会・研修会・学会のお知らせ」からご確認下さい

https://www.pttokyo.net/sinnjin_kenshu/2025/11/27764.html

東京都理学療法士協会 西多摩南多摩ブロック部 主催

症例検討会 研修会

令和8年1月17日（土）14:30(予定)～19:30

会場：東京たま未来メッセ

定員：100名(対面のみ)

症例検討会

演題募集期間：令和7年10月20日（月）～令和7年11月25日（火）17時まで
※発表者は後期研修履修中の者に限る

予定演題数：10演題程度

参加費：無料（続けて研修会参加の場合は、研修会参加費が必要となります）

ポイント付与：あり（後期研修履修者発表ポイント・聴講ポイントに限る）

研修会

テーマ：『脳卒中患者の装具療法』

講師：松田雅弘 先生（順天堂大学 保健医療学部 理学療法学科 教授）

対象：理学療法士、その他の医療従事者

参加費：東京都理学療法士協会員：500円、
日本理学療法士協会員：1,000円、
非会員：5,000円

セミナー番号：151048

申し込み方法：JPTA会員の方はアプリ・マイページより
JPTA会員以外の方は下記のQRコードよりお申込みください

ポイント付与：あり（登録理学療法士 更新1.5ポイント、
認定/専門理学療法士 更新1.5点）

※ポイントのカリキュラムコード：148(装具)

申し込み締め切り日：カード支払い選択者1/12、
口座振替12/15、現金振込12/24




問い合わせ：nishiminamitamablock@gmail.com 東京医療学院大学 宮地司
件名「西多摩・南多摩ブロック部研修会・症例検討会問い合わせ」とお願い致します。

西多摩・南多摩ブロック部 青梅市支部 青梅市「介護の日イベント」におけるリハビリ相談会開催報告

令和7年11月2日(日)10:00～16:00 青梅市役所

青梅市「介護の日イベント」におけるリハビリ相談会

青梅市支部では、市が主催する「介護の日イベント」にてリハビリ相談会を実施しました。相談は計25件あり、内容は転倒予防に関するもの、介護に関する内容、在宅でのリハビリ方法の助言、体力測定結果に対するフィードバックなど多岐にわたりました。理学療法士目線の専門的なアドバイスを行い、相談者やそのご家族、行政の方々より大変好評をいただきました。

また同日に行われた高齢者支援課の企画、市民の健康増進の一貫として行った体力測定コーナーでは、青梅リハビリネットワークに所属するPT(当支部員)が片脚立位テストを担当しました。子供から高齢者まで幅広い年代の方々が参加され、利き足、軸足の確認とアドバイスを行いました。こちらも計185名の方が参加され、大盛況となりました。

今後も行政との連携を強めて、市民の方々の健康増進に寄与できるよう活動を継続して参ります。



報告者 佐々木和優 (高木病院)

西多摩南多摩ブロック部 羽村市支部 はむら健康フェア リハビリ相談会開催報告

日時：令和7年10月13日（月）9:30～14:00

会場：S & D スポーツパーク富士見

来場者：約7000名

対応者：延べ845名

参加スタッフ数：PT都士会員10名

羽村市ではスポーツの日に「市民スポーツまつり はむりんピック」が開催されました。当イベントの一環であり羽村市健康課が主催する、「はむら健康フェア」に羽村市支部理学療法士が参加し、3つのブースに分かれ来場者の握力、体組成、骨密度を測定し、測定結果に対するフィードバックや個別相談を行いました。

握力測定には471名、体組成測定には171名、骨密度測定には203名が来場されました。握力測定は各年代の最高値を掲示することで積極的なチャレンジに繋がり盛り上がりました。体組成・骨密度測定のフィードバック・個別相談は管理栄養士と協同で実施し、健康な生活を送るために栄養と運動双方の重要性をご理解いただくことが出来ました。羽村市は人口54000人弱の小さな市ですが、会場全体では約7000名が来場され、市民のスポーツや健康への意識の高さを実感でき、子供から高齢者まで大いに盛り上がりを見せたスポーツの日となりました。



報告者：奥野美咲（羽村三慶病院）

【活動報告】第4回パラ陸上教室 in 国立競技場

- ・日時：2025年10月19日
- ・会場：国立競技場
- ・参加者：14名
- ・派遣者数：6名

東京マラソン財団よりご依頼を頂き、今年も国立競技場にて開催されたパラ陸上教室 in 国立競技場のサポートを行いましたので、ご報告いたします。

当日は国立競技場内で複数の教室が同時に開催されており、さまざまな団体と連携しながら、安全で円滑な運営に努めました。事故やけがなく無事に終了できることをご報告いたします。

今回の教室には14名が参加され、私たちは例年に続き、レーサー教室およびフレームランニング教室のサポートを担当しました。

レーサー教室では、事前のレーサー車いすの調整、移乗介助、シーティング補助、走行サポートなどを実施しました。

毎年課題となっていたレーサーへの移乗については、準備段階からの連携がスムーズに進み、今年は特に安全かつ効率的に対応することができました。

フレームランニング教室では、参加者の体格に合わせた姿勢・機器調整、走行時の補助など、参加者それぞれに合わせたサポートを行いました。

普段立ち入ることのできない国立競技場フィールドでの活動は、今年も大変貴重な機会となりました。

参加者からは「楽しかった」「また参加したい」といった声が聞かれ、スポーツを通して新たな挑戦に踏み出すきっかけづくりに貢献できたと感じています。

最後に、本イベントにご協力いただいたすべての関係者の皆さん、そして参加してくださった皆さんに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



© 東京マラソン財団

報告者：スポーツ支援・推進部 宮川大（武蔵野みどり診療所）

【活動報告】杉並区ユニバーサルタイム

- ・日 時：2025年8月6・27日9月10.23日10月8・25日11月5・15日
- ・場 所：荻窪体育館、TAC 杉並区上井草スポーツセンター
- ・参加者：延べ 160 名
- ・理学療法士：延べ 33 名

このたび、杉並区で実施されている「ユニバーサルタイム」に理学療法士として参加し、軽い運動やウォーキング、ボール種目などのプログラムにおいて、参加者への運動指導および身体サポートを行いました。ユニバーサルタイムは、障害のある方を対象に、区内の体育施設で定期的に開催されている取り組みで、参加者は障害の種類や程度、ご希望に応じて、さまざまな運動プログラムを自由に選択できる内容となっています。幼児から高齢者まで幅広い年齢層の方々が参加しており、それぞれのペースで体を動かしながら、楽しみながら健康づくりに取り組まれています。

理学療法士は軽い運動コーナーなどを担当し、日常生活でも取り入れやすい運動方法の指導や、身体に不安や悩みを抱える方への相談対応を行いました。個々の身体状況や運動経験に応じたサポートを心がけ、安全で無理のない運動が継続できるよう支援しました。

また、継続して参加される方も多く、運動を通じた体力の維持や生活の活性化につながっている様子が見られました。活動を通して、障害の有無にかかわらず、誰もが楽しく身体を動かせる環境づくりの重要性を改めて感じました。

現在、杉並区のホームページにも「理学療法士が常駐し、楽しく運動できるプログラム」として紹介されており、地域における理学療法士の関わりが形として広がりを見せてています。今後も理学療法士として、地域住民の健康づくりと社会参加を支える活動を継続してまいります。



報告者：嶺岸洸希（荏原病院）

【活動報告】EDORIKU パラ陸上教室サポート

日時：9月20日、11月1日（計2回）

会場：江戸川区陸上競技場

参加者：9月20日5名、11月1日7名

サポートメンバー：鈴木真治先生、安達瑠那先生、川畠公宏先生、向家知宏

内容：EDORIKU パラ陸上教室は、自走式車椅子を使用できる方や、立位での車椅子自走が可能な方を対象に実施されており、競技力向上・体力増進・レーサーの走行を楽しむなど、それぞれの目的に合わせて参加できるプログラムとなっております。

当日はパラリンピアンの先生方の座学から始まり、食事や睡眠の重要性などを参加者の方々に指導していました。11/1は現役選手が講師であったこともあり、参加者の中には積極的に質問される方もおられました。

その後はフィールドへ向かい、準備体操→体力測定→レーサー走行→100m計測→整理体操のプログラムで行いました。

競技用車椅子（レーサー）への乗車介助、シーティングの調整を担当しました。特に成長期の学生は、数ヶ月の間にも体格の変化がみられ、座高の調整や身体の傾きの調整などシーティングの重要性を感じました。

座学からフィールドでの走行まで、江戸川区のサポーターの方や会場のスタッフとコミュニケーションをとり皆で協力しながら運営をしていることもあり、円滑に終始和やかな雰囲気で行われました。今後も、このような活動を通して、安全かつ快適に競技へ臨めるよう支援していきたいと思います。ご協力くださった皆様に心より感謝申し上げます



報告者 スポーツ局 人材育成部 向家知宏（浮間中央病院）

【活動報告】江戸川区パラスポーツ初心者教室サポート

- ・日程：2025年9月7日、10月5日、11月2日
- ・会場：葛西区民館、小岩アーバンプラザ、東部区民館、小松川さくらホール
- ・参加者総数：延べ49名（新規参加者2名）
- ・派遣者総数：延べ9名

江戸川区で継続的に開催されている「パラスポーツ初心者教室」は、障害のある方や病後の体力低下などにより運動に不安を感じる方など、誰もが安心して身体を動かせる場として実施されています。秋季の開催では、講師の先生の指導のもと、フリーストレッチで身体を温めたあとボルレッジを行い、疾患や年齢層に応じてマイティーポールやボール体操、ボッチャなどのプログラムを行いました。ミニカラーコーンを使ったお手玉キャッチボールも好評で、片麻痺のある方が立位でバランスを保ちながら取り組む姿も見られました。理学療法士は、参加者の体調や動作の安全を確認しながら、無理のない範囲での活動をサポートしました。少しづつ新規参加者も増え、継続して参加される方も多く、「楽しい」「また来たい」といった声が多く聞かれています。今回も怪我や体調不良なく、安全に全日程を終えることができました。今後も地域と連携し、安心・安全で笑顔あふれる教室づくりを目指して活動を続けてまいります。



報告者 スポーツ局スポーツ支援・推進部 安達瑠那（森山記念病院）

【活動報告】えどがわパラスポーツ体験会サポート

- ・日 時：2025年11月9日(日)、場 所：江戸川区スポーツセンター
- ・来場者：133名、対応者：15名、相談件数：2名、参加理学療法士数：3名

江戸川区では8月に引き続き、障害者のスポーツ促進を目的とした「えどがわパラスポーツ体験会」が開催されました。その中で、運動相談ブースの運営ならびに競技体験サポートを行いました。江戸川区内で教室事業として開催されている各団体の方々のブースが設置され、また、11月に開催される東京デフリンピックPRブースも追加されて、にぎやかな雰囲気で開催されました。参加者の方は行ったことのないスポーツを体験することで、様々な刺激を受け、足を引きずり参加された方も、引きずる様子もなく足取りが軽くなり、喜びの声も聞かれました。イベントを通じて、『スポーツの力』を実感し、誰もがスポーツを楽しみ、コミュニケーションの輪が広がることで、社会とのつながりを持てるようになることを経験することができました。今後も理学療法士として地域の方々の社会活動や共生社会が広がるよう、支援を続けて行きたいと思います。



報告者：スポーツ局 スポーツ支援・推進部 鈴木真治（森山ケアセンター）

【活動報告】青山学院大学フェンシング部サポート

- ・日程：2025年8月16日、8月30日、9月13日、9月27日、11月8日
- ・会場：青山学院大学
- ・参加者：延べ115名
- ・参加スタッフ：延べ16名

スポーツ局では青山学院大学フェンシング部サポートを行っています。サポート内容はフィジカルテスト、トレーニング指導、選手のコンディショニングやテーピング対応等を実施しています。フェンシングは怪我の多いスポーツであり、多くの選手が怪我や慢性痛に悩まされています。そのため、怪我の予防や慢性痛を軽減するために、サポートチームによりチーム内で多い怪我や慢性痛等を議論し、その結果を基にウォーミングアップや症状に合わせたクールダウンメニューを動画で作成しました。このサポート活動は理学療法士として日頃の臨床業務では経験することが難しい、スポーツ現場でのトレーニング指導やコンディショニングを学び実践させていただく、貴重な場であると実感しています。

青山学院大学フェンシング部としては関カレ、インカレが終了し4年生が引退しました。今年度のチーム目標であった「全種目でインカレ出場」は果たせなかったものの、団体戦では男子フルーレ、女子エペ、男子サーブル、個人戦では8名がインカレに出場し過去最高の結果となりました。新チーム体制となつたためトレーニング内容を見直し、今後も選手の目標に対し、理学療法士として寄り添い、選手とともに一丸となりサポート活動を実施していきたいと考えております。

今回ご協力いただいた先生方、誠にありがとうございました。今後ともご協力のほどよろしくお願ひいたします。



報告者：石川大輔（国家公務員共済組合連合会 三宿病院）

【活動報告】フェンシングサポート

- ・日 時：2025年8月30・31日、9月6・7日、10月8・9・10・11・13・18・19・25・26・27・28・29日、11月1・2・8・9日（延べ20日）
- ・場 所：大蔵第二運動場体育館、北区赤羽体育館、北区滝野川体育館、駒沢オリンピック公園屋内球技場
- ・参加者：延べ2786名
- ・参加理学療法士数：延40名

8月からも日本フェンシング協会様、東京都フェンシング協会様、関東学生フェンシング連盟様、日本学生フェンシング連合様よりからご依頼いただき、多くの大会サポートに参加させていただきました。10月からは関カレ、インカレが行われ、多くの学生選手が日々の練習の成果を出そうと試合に励んでおりました。また、大学対抗の団体戦も行われ、非常に熱気ある大会となっておりました。

2024年度に人材育成部主催のスポーツ現場で安全・適切な対応を行う為の技能テストに合格したスタッフもフェンシングサポート多く参加されており、現場経験を積むことでスポーツ現場の対応が出来るようになっております。

今回参加していただいた方々、ありがとうございました。引き続きフェンシングサポートをよろしくお願い致します。



報告者：スポーツ局スポーツ支援・推進部 生井真樹（世田谷人工関節・脊椎クリニック）

【活動報告】東京レガシースタジアム 2025 「明治公園ファミリースポーツ体験広場」運営サポート

- ・日 時：10月18日（土）、10月19日（日）
- ・場 所：都立明治公園
- ・参加理学療法士：述べ 17 名

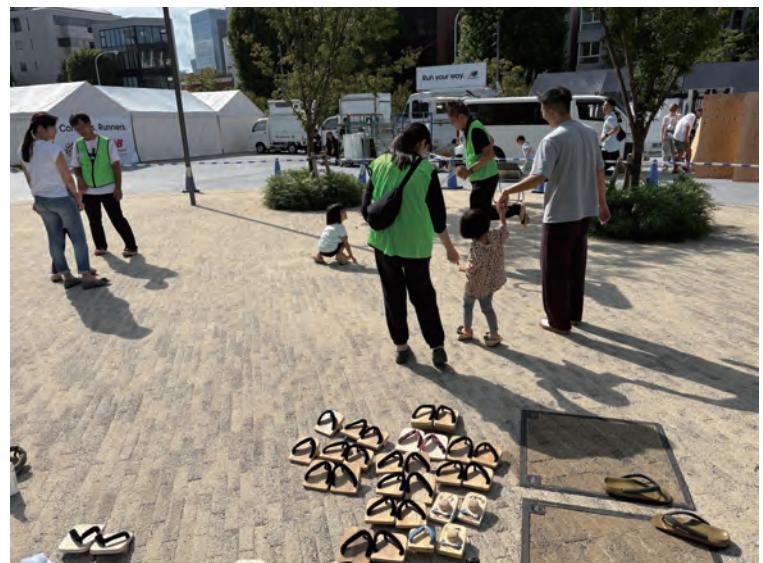
昨年度から引き続き東京マラソン財団様からの委託で、東京レガシースタジアム 2025 ファミリースポーツ体験広場の運営を行いましたので、ここにご報告致します。

東京都理学療法士協会 HP と FAX 通信で参加スタッフを募集し、2 日間で述べ 17 名のスタッフで運営を行いました。

東京レガシースタジアム 2025 は、東京のスポーツ文化を "レガシー" として次世代へ継承するために、スポーツ経験や年齢、性別、障がいの有無に関わらず、誰もが楽しめるイベントとして開催されています。明治公園において、今回は「ファミリースポーツ」というテーマで、バブルボールリラックス、一本歯下駄、ランニング用バギーの 3 つの体験サポートを行いました。途中雨で中断する場面もありましたが、昨年よりも多くの方に参加していただきました。

広い芝生の上で大きなバブルボールで転がる体験や、下駄を履いたことのないお子さんへお父さんが一緒に楽しんでいる姿などが印象的でした。家族が一緒になり協力して普段なかなか体験することができない身体の動きやスポーツ体験をして頂けたと思います。

最後になりますが、本イベントにご協力いただいた関係者の皆さん、サポートしていただいた理学療法士の皆さんに心から感謝申し上げます。



© 東京マラソン財団

報告者：スポーツ支援・推進部 生井真樹（世田谷人工関節・脊椎クリニック）

【活動報告】EDORIKU パラ陸上記録会 兼 エドリク陸上記録会 サポート参加報告

- ・日時：2025年11月8日
- ・場所：江戸川区陸上競技場
- ・参加者：36名（うちパラ選手1名）
- ・参加理学療法士：3名

この度、江戸川区陸上競技場で行われた「EDORIKU パラ陸上記録会 兼 エドリク陸上記録会」のサポートをさせて頂きました。成人から小さなお子様まで幅広い年齢層の方々が参加されておりました。また、レーサー車椅子にて実施されるパラの短距離記録会も同時に開催されました。

理学療法士としては、大会救護や参加選手の健康相談への対応をさせて頂きました。幸いなことに、大きな事故や怪我等はありませんでしたが、幅広い年齢の選手から、痛みや姿勢のご相談があり、日頃のケアやトレーニングの指導を行いました。ご相談頂いた方からは、「専門家に聞いてみて良かった」といった声もあり、改めて理学療法士としての知識や技術が役に立つ喜びを感じました。

今回、ご協力下さった皆様に感謝申し上げます。次回もサポートさせて頂ける機会があれば幸いです。



報告者：土橋夏実（国家公務員共済組合連合会 三宿病院）

【活動報告】豊島区立清和小学校におけるコーディネーショントレーニング授業 ～敏捷性・投動作を中心に～

開催日時：① 2025年10月28日（火） 9:35～14:55
② 2025年10月29日（水） 8:45～12:15
③ 2025年10月31日（金） 8:45～12:15

会 場：豊島区立清和小学校 体育館

対 象：①小学3・4年生 ②小学5・6年生 ③小学1・2年生

参加者数：計340名

講師 / スタッフ

- ① 斎藤弘樹 / 久木田詩穂実・門馬博・嶺岸洸希
- ② 渡邊祐介 / 片見奈々子・国分空以・守屋百花・尾崎庸宏
- ③ 森本孝則 / 鈴木享之・向家知宏・平良寛朗・久保田純弥

内 容：豊島区立清和小学校の校長先生より、清和小学校では、全国体力・運動能力、運動習慣等調査においてソフトボール投げ・反復横跳びの数値が全国平均より低いという課題を感じているとのお話をありました。今回、体育科授業のゲストティーチャーとして招かれ、コーディネーショントレーニングの要素を取り入れた投動作・敏捷性が高まる運動プログラムを提供させて頂きました。

運動のポイントと一緒に考えて解説したり、サーキットトレーニングや楽しめるゲームも含めながら低学年・中学年・高学年の授業内容を構成して実施しました。高学年においては、数名の生徒に協力を得て、指導前後の比較を実施し、向上した結果が得られました。その結果を学校へも伝えることが出来ました。今後も学校のニーズに合わせて、子ども達の健康や体つくりの支援が行えるように活動をしていきたいと思います。



報告者：斎藤弘樹（大橋病院）

**【活動報告】神田女学園特別授業
～姿勢とアンダーウェア（ワコールツボミスクールとのコラボ講座）～**

日時：2025年8月29日（金）13:15～14:05

場所：神田女学園中学校高等学校 高校1年生（143名）

講師：板倉尚美（理学療法士）、山口麻里氏（株式会社ワコール ツボミスクール講師）

アシスタント：久木田詩穂実、片見奈々子、藤井佳奈、山本由美、板倉尚子

【内容】

神田女学園高校1年生143名を対象に、株式会社ワコール様との初の企業コラボとして、同校では初めてとなる「アンダーウェア」に関する講義を実施した。講義テーマは、下着・姿勢・呼吸の関係性と、それぞれが身体に及ぼす影響についてであり、成長期の生徒に必要な基礎知識を、理学療法士としての専門的視点から分かりやすく伝える構成とした。

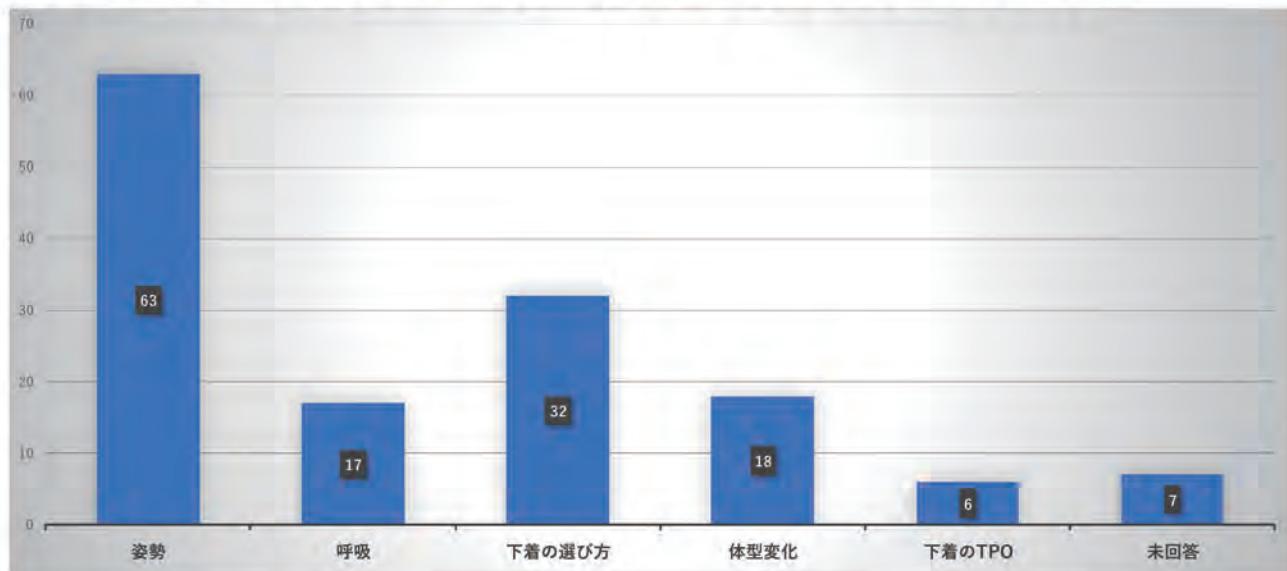
アクティビティでは、セラバンドをアンダーバストに巻いて胸郭を適度に圧迫し、呼吸のしやすさや姿勢変化を体感してもらうことで、身体に合った下着の役割を実感できる内容とした。本企画にあたり、ワコール様との事前打ち合わせでは、理学療法士としての知見を高く評価いただき、成長期のみならず幅広い年代の女性に共通する視点として社内共有され、好評を得たとの報告もあった。



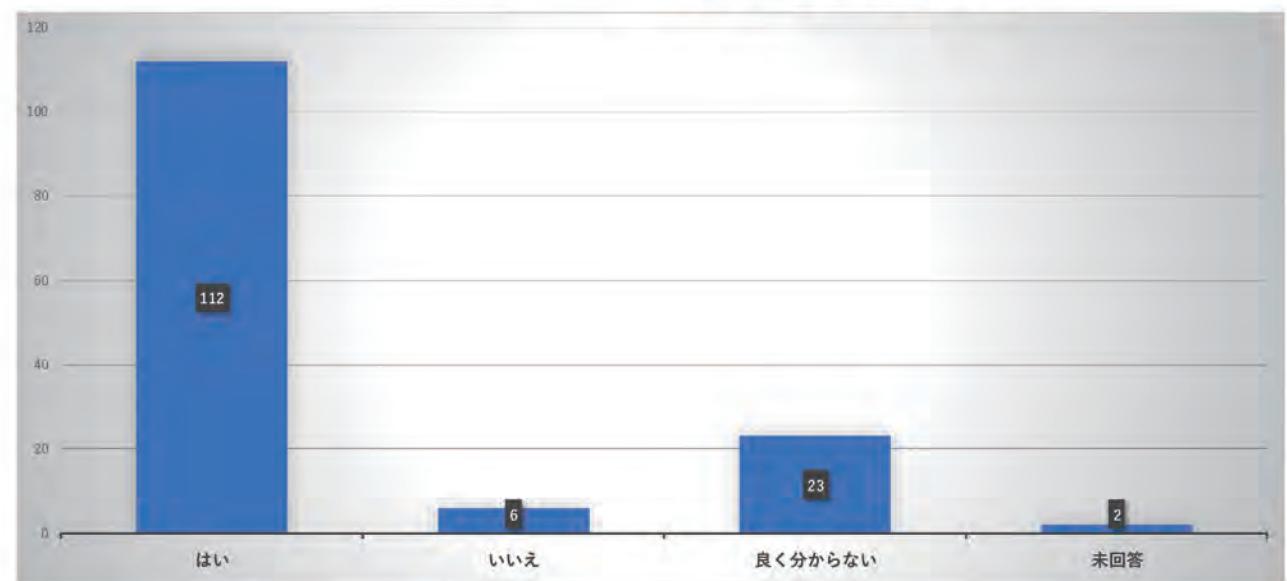
授業後のアンケートでは、「姿勢」が最も興味深かったとの回答が多く（Q1）、また「自分の身体のサイズ測定をしたい」と回答した生徒は9割にのぼった（Q2）。これらの結果から、本企画を通じて“自分の身体を大切にする”というメッセージが確実に伝わり、生徒の主体的な身体意識の向上につながったことが確認できた。今後も教育機関・企業・医療職が連携し、年代に応じた身体教育を発展させていく意義を再認識する機会となった。

【活動報告】神田文学園特別授業
～姿勢とアンダーウェア（ワコールツボミスクールとのコラボ講座）～

Q1：「姿勢」「呼吸」「アンダーウェア」の内、興味深いと思った項目は何ですか？(ひとつだけ)



Q2:自分の身体のサイズ測定をしたい
と思いましたか？



報告者 板倉尚美

【活動報告】帝京科学大学千住桜木保育園における見学会

開催日時：2025年10月8日(水),10月15日(水),10月21日(火)

10月23日(木),10月29日(水) 各回9:45~11:30

会 場：帝京科学大学千住桜木保育園

対 象：0～5歳児、保育士

参加者数：延427名

参加スタッフ：板倉尚子、鈴木享之、渡邊祐介、齋藤弘樹、森本孝則、片見奈々子、久木田詩穂実
国分空以、宮川大、向家知宏、坂田晋一、高橋勇希、尾崎庸宏

内 容：

東京都理学療法士協会スポーツ局では、学校保健事業の一環として、新たに就学前児への支援に関する取り組みを検討していました。

この事業を具体的に展開するにあたり、体制の構築および人材育成を目的として、豊田業務執行理事および板倉局長のご尽力のもと、帝京科学大学千住桜木保育園における保育園見学会が開催されました。

本見学会は全5回にわたって実施し、各回の見学後には参加者による振り返りを行いました。

帝京科学大学千住桜木保育園では、「子どもの自発性を尊重する」ことを理念としており、カリキュラムの中には「36の動き」を取り入れられています。園庭や教室での遊びの中でも多様な動きが自然に促されており、理学療法士としても発達段階に応じた運動環境の在り方を観察する貴重な機会となりました。

また、教室や園庭の環境には、安全面や発達支援の視点から多くの工夫が施されており、幼児教育における環境設定の重要性を再認識することができました。

振り返りの場では、幼児の発達に対して理学療法士がどのように関わることができるかについての意見に加え、保育士の腰痛の多さに着目した意見も聴取され、保育士の姿勢や動作への支援など、園児のみならず園全体の健康課題へのアプローチの必要性も議論されました。

今後は、子ども自身の発達支援のみならず、子どもを取り巻く環境や支援者の健康づくりも含めた、包括的な関わりの在り方を検討・実践していくことを目標としていきたいと思います。

【活動報告】2025年度スポーツ現場で安全・適切な対応をするための技能テスト

開催日時：2025年11月11日（火）19時～20時30分

会 場：文京学院大学 本郷キャンパス

参加者数：東京都理学療法士協会会員3名（うち合格者3名）

検定員：板倉尚子先生、渡邊祐介先生、生井真樹先生、森本孝則先生

アシスタント：鈴木享之先生、鈴木真治先生、片見奈々子先生、平良寛郎先生、

内 容：

スポーツ局人材育成部では、スポーツ局より各スポーツ現場へのスタッフを派遣するためのスキル確認として”スポーツ現場で安全・適切な対応をするための技能テスト”を実施しております。東京都理学療法士協会会員がスポーツ現場でサポートするうえで、選手やサポートスタッフが安心・安全に活動が出来るための技術や、負傷者に対する迅速かつ正確な評価に関する知識と技術を有しているかを確認することを目的としています。

今回は、昨年度までとは内容を変更し、足関節回外捻挫に対するテーピング、熱中症に対するシナリオテスト、脳振盪に対するシナリオテスト、スポーツ外傷に対するシナリオテストの4つとし、よりスポーツ現場で求められる急性期対応に特化させたテスト内容とさせて頂きました。

このテストを通じ、現場にでるために必要最低限のスキルを身につけて、選手の安全の確保と現場に出るスタッフの自信に繋がればと思っています。

スキル向上のためには、今回のテストのみで終わるのではなく、今回のテスト内容を日々アップデートしていくことが重要だと考えています。人材育成部では、スポーツ現場にでるセラピストに向けて、ブラッシュアップセミナーも開催しておりますので、是非ご参加ください。



報告者：スポーツ局 人材育成部 向家知宏（浮間中央病院）

【活動報告】「2025年度スポーツ理学療法認定カリキュラム」WEB開催

開催日時：2025年10月11日（土）9時00分～16時10分

2025年10月19日（日）9時00分～16時10分

2025年10月25日（土）9時00分～16時10分

2025年11月1日（土）9時00分～16時10分

会 場：ZOOM 開催

参加者数：8名

[講師]

WEB研修会：板倉尚子先生、平野佳代子先生、宮森隆行先生、渡邊祐介先生、鈴木章先生、笹代純平先生、中山修一先生、生井真樹先生、村本勇貴先生、相澤純也先生、佐藤正裕先生、杉山弘樹先生、千葉慎一先生、瀧口耕平先生

[内容]

スポーツ理学療法認定カリキュラムを開催させて頂きましたので、ご報告させて頂きます。

東京都理学療法士協会スポーツ局では、日本理学療法士協会 新生涯学習制度における認定理学療法士（スポーツ）臨床認定カリキュラムの教育機関として認定されています。

WEB研修会4日間+対面研修会1日間の全5日間の研修会を企画させて頂きました。

内容は、必修・選択科目で計23科目あり、スポーツ理学療法の歴史から選手のコンディショニングを向上させるためのハイパフォーマンストレーニング、現場で使用するテープなど実技を交えて、日々の現場で活かせる内容となっておりました。

今回、講師をして頂いた先生方にこの場をお借りして、心より感謝致します。

11/22には認定研修会最後の講義となります対面研修会を日本大学文理学部キャンパスにて行わせて頂きます。



<科目・講師一覧>		2025年度講師	開催形式
必修科目講師 *1コマあたり90分	1 スポーツ理学療法 総論 2 医者の診断と治療介入 3 スポーツ外傷・障害の機能評価 4 アシドーピング 5 スポーツ外傷の急性期対応 6 スポーツ外傷・障害のアスレチックリハビリテーション 7 スポーツ外傷・障害発生・再発予防のための理学療法 8 パフォーマンス向上のための介入とその方法 9 スポーツ外傷・障害への理学療法 上肢 10 スポーツ外傷・障害への理学療法 下肢 11 スポーツ外傷・障害への理学療法 腰頸部・体幹 12 患者・家族教育の意義とその方法 13 スポーツ用器具・テーピング・物理療法とその活用 14 勝がい者スポーツ 経験 15 勝がい者スポーツ 障害別各論	板倉尚子 先生 宮森隆行 先生 平野佳代子 先生 株式会社薬樹 渡邊祐介 先生 佐藤正裕 先生 瀧口耕平 先生 小山青之 先生 千葉慎一 先生 相澤純也 先生 杉山弘樹 先生 村本勇貴 先生 鈴木章 先生 笹代純平 先生 中山修一 先生 佐保泰明 先生	WEB WEB WEB WEB WEB WEB WEB WEB WEB WEB WEB WEB WEB WEB WEB WEB WEB WEB 対面 対面
選択科目講師 *1コマあたり90分	1 症例・障害特異的理学療法の実際(画像評価の実際) 2 症例・障害特異的理学療法の実際(救急対応の実際) 3 症例・障害特異的理学療法の実際(技術編4) (スポーツ選手に対する徒手療法) 4 症例・障害特異的理学療法の実際(スポーツ用器具・テーピング 下肢) 5 症例・障害特異的理学療法の実際(パフォーマンス向上・予防トレーニングの実際) 6 症例・障害特異的理学療法の実際(勝がい者スポーツの競技・障害別対応の実際)	青木壮志 先生 鈴木章 先生 小山青之 先生 笹代純平 先生	対面 対面 対面 対面

写真：WEB研修会（板倉尚子先生）

報告者：スポーツ局 人材育成部 岩山睦（浮間中央病院）

就労支援のための施設見学のお知らせ

平素より本会の活動にご理解、ご協力をいただき、ありがとうございます。

事務局ライフサポート部では、「就労支援のための施設見学」を再開しました。本事業は、結婚・出産・育児、介護、大学院進学、企業での就労、体調など、様々な理由により臨床から離れた会員の皆様を対象とし、臨床での就労を支援することを目的としています。

施設見学では、会員の皆様にご協力いただき、理学療法に関連する制度、施設の概要、また基本的な理学療法について説明していただきます。就職のための施設見学とは異なりますので、プレッシャーを感じることなく見学することが可能です。施設見学をご希望の場合、下記メールアドレスにご連絡ください。

今後とも、本会の活動に御理解賜りますようお願い申し上げます。

東京都理学療法士協会事務局

ライフサポート部

部長 知脇 希

【問い合わせ先】

Mail : lifesupport@pttokyo.net

第 52 回国際福祉機器展視察報告

第 52 回国際福祉機器展は東京ビッグサイトで開催され、福祉分野の最新技術や動向を直接体験できる場として、多くの専門職や一般来場者で大いに賑わいました。コロナ禍を経て、国内外からの出展者・参加者が増加し、活気が戻ってきた印象を受けました。理学療法関連機器開発委員会では、少人数ながらも毎年継続して本展示会を視察しており、今年も特に注目を集めた最新の福祉機器や印象に残った製品を紹介します。

1. 「電動アシスト四輪自転車」

近年、高齢ドライバーによる交通事故が社会問題となる一方で、免許を返納した高齢者にとっては移動手段の確保が課題となっています。そこで、安全かつ快適に移動できる手段として注目されているのが、電動アシスト四輪自転車です。四輪構造によって高い安定性が確保され、転倒のリスクを大幅に低減できます。また、電動アシスト機能により、坂道や長距離の移動でも負担が少なく、快適に走行できる設計となっています。さらに、スタイリッシュなデザインも特徴であり、高齢者が積極的に外出しようという意欲を持てるよう工夫されている点が印象的でした。

2. 「階段昇降が可能な電動車椅子」

近年、車椅子使用者の移動支援においても、より高い自立性と安全性が求められています。その中で注目されているのが、階段昇降が可能な電動車椅子です。この電動車椅子は、最新のセンシング技術によってバランスを自動制御し、使用者自身の操作のみで段差の乗り越えや不整地での走行を実現しています。さらに、障害物センサが周囲を検知し、衝突の危険がある場合には警告や自動ブレーキによって安全性を確保します。これにより、公共交通機関の利用なども介助者なしで行えるようになり、移動に伴う心理的・身体的負担を大幅に軽減できる点が特徴的でした。

3. 「非接触型バイタルサイン測定・管理システム」

医療・介護分野における遠隔モニタリング技術の発展に伴い、非接触で健康状態を把握する仕組みへの関心が高まっています。その中でも注目されているのが、非接触型バイタルサイン測定・管理システムです。カメラ映像を用いた独自技術により、皮膚の色変化や血管振動などの画像情報から、心拍数・酸素飽和度・血圧・表面体温・ストレス指数など複数のバイタルサインを、約 10 秒で非接触測定できます。さらに、測定データはネットワーク経由でサーバーに蓄積・管理でき、個人の健康管理や医療機関での見守りなどへの活用が期待されます。

*国際福祉機器展は原則撮影禁止のため、機器の写真掲載はしておりません。

*国際福祉機器展における展示機器の詳細は保健福祉広報協会ホームページ H.C.R.Web サイト

<https://hcr.or.jp/> をご覧ください。

*公益社団法人の特性上、企業名、製品名の掲載は控えております

報告者 太田 恵(杏林大学)

【実施報告】理学療法士に聞くオンライン相談会 2025

日 時：2025年7/22, 7/30, 8/7, 8/15, 8/23, 8/31 計6日間

会 場：オンライン開催（Zoom）

対 象：理学療法士養成校への受験を検討している東京都民の方

運営スタッフ：板井恵輔 中村樹

概 要：

理学療法士についての理解を深めていただくため、オンライン形式にて業務内容や資格取得までの流れ等の説明会を実施しました

内 容：

高校生を主対象として夏休み期間に開催し、合わせて40名程の理学療法士養成校への進学を検討している方々にご参加いただきました。

例年通りzoomでの開催とし、多くの東京都理学療法士協会委員の皆様にご協力頂き無事に行うことができました。

開催内容といたしましては、理学療法（士）とはどのような職業か、養成校の種類や探し方、実際の業務内容の一例紹介、理学療法士の職域などを実際の体験談を交えつつ30分程度かけて説明いたしました。

昨年に続き、本年も質疑応答の時間を多く設けて参加者の方々とのディスカッションを積極的に行いました。理学療法士の業務内容や、やりがいを知っていただき、興味もより一層深まっていただけたことと感じております。

開催中は、理学療法士として働く中での大変なことややりがいは何か、我々理学療法士が今後目指している事など、実体験に基づくご質問を多くいただきました。その他も既に養成校への進学を考えたうえで、養成校ごとの特徴や選び方など、より具体的な質問もあり大変嬉しく思います。

今回の活動で理学療法士像を深めていただけた他に、東京都理学療法士協会として進路検討の一助となるような活動ができたと考えております。

本年の結果を基に、今後も理学療法士について興味、関心を持っていただけるような活動を行っていきたいと考えております。

報告者：外宣部 板井恵輔（緑成会病院）

【実施報告】理学療法士に聞くオンライン相談会 2025



理学療法士に聞く オンライン 相談会 2025

開催日

7.22 火 7.30 水 8. 7 木
8.15 金 8.23 土 8.31 日

開催時間 14:00 ~ 14:30

内 容 理学療法士を目指す方のためのオンライン相談会です。実際に現場で働く理学療法士が1日の業務を説明し、ご質問にお答えします。現場の理学療法士と話すことで、理学療法士という職業のやりがいや魅力を感じていただきたいと思います。

方 法 ZOOM

参加要件 理学療法士養成学校への進学・受験を予定している東京都民の方
または理学療法士に興味のある東京都民の方

問い合わせ 緑成会病院 板井宛 itai.keisuke.08@gmail.com

主 催 公益社団法人
 東京都理学療法士協会

応募方法 東京都理学療法士協会 HP
または QR コード



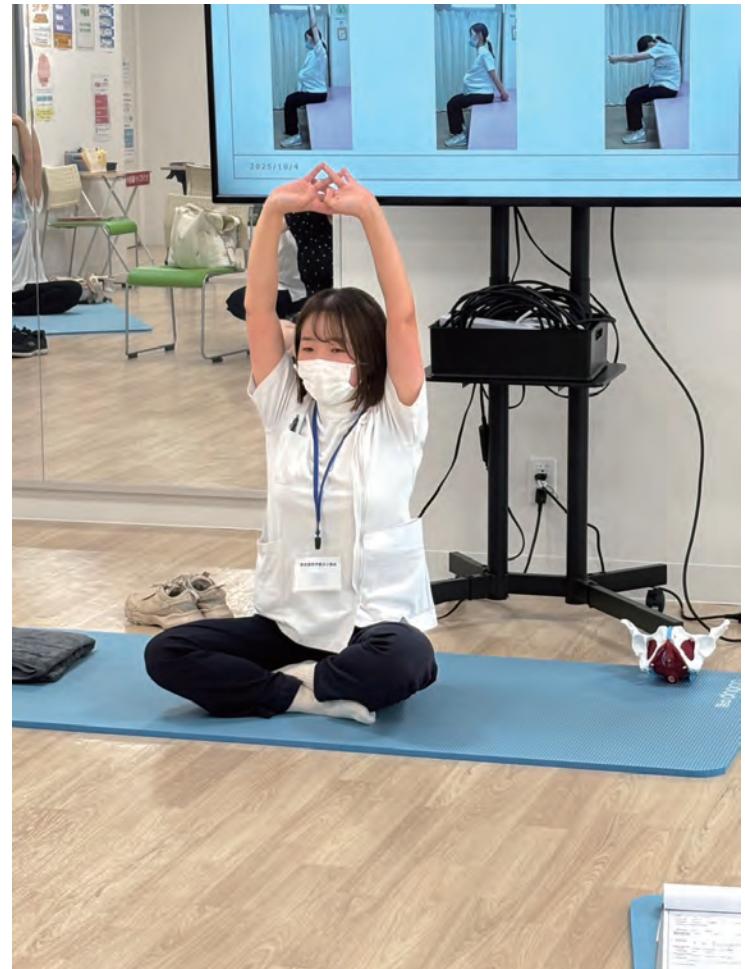
【開催報告】ウイメンズヘルスケア「産後リハビリテーション」

10月4日（土）健康増進部の事業としてウイメンズヘルスケア「産後リハビリテーション」を開催致しました。

当該事業については昨年、一昨年と東村山市のNPO法人との共催という形で行って参りましたが今回も市民との交流施設として昨年オープンしたONE FOR ALL 西東京を借りての開催となりました。

当日は9組の赤ちゃんとママパパの参加があり講義の後、マンツーマンでの実技指導を中心に行い、積極的な質疑応答がなされ大変活気ある講習会となりました。

事後に行ったアンケートでは当分野におけるニーズの高さが伺われ、専門職である我々PTが今後も積極的に関わっていく必要性を強く感じました。



報告者 健康増進部 小澤 伸治

【開催報告】供食堂利用親子を対象とした体力測定会

昨年に引き続き健康増進部主催で子供食堂利用親子を対象とした体力測定会を開催しました。今回多くの方に御参加頂き楽しくも我々にとっては社会の現状を知る大変良い機会となりました。今後、得られたデータを精査して参りますが仮に体力面で標準値と子供食堂利用者との間に有意差があるとすれば専門職である我々理学療法士は社会貢献のため何らかの形で対応していくことも必要であると感じました。



報告者 健康増進部 小澤 伸治

執筆投稿規定

1. 学術研究論文
2. 教育関係論文
3. 症例報告論文
4. 行政及び社会運営に関する論評等

【投稿者の資格】

公益社団法人東京都理学療法士協会会員に限る。但し会長が依頼した場合この限りではない。

【投稿原稿の条件】

投稿原稿は他誌に発表、または投稿中の原稿でないこと。本規定に従って作成すること。

【著作権】

本誌に搭載された論文の著作権は東京都理学療法士協会に属する。

【研究倫理】

ヘルシンキ宣言に基づき対象者の保護には十分留意し、説明と同意などの倫理的な配慮に関する記述を必ず行うこと。

【原稿の採択】

原稿の採択は複数の査読者の意見を参考に編集委員会において決定する。査読の結果、編集方針に従って原稿の修正を求めることがある。また、必要に応じて編集委員会の責任において字句の訂正を行うことがある。

【執筆規定】

1. 論文構成

- 1) 標題（表題）：内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。原則として略語、略称は用いない。
- 2) キーワード：標題及び要旨から3個を抽出する。不十分な場合は本文から補充する。3) 著者名、所属名
- 4) 要旨：「目的」「方法」「結果」「結論」を含めて400字程度で記載する。
- 5) 本文：下記の各部分から成り立っていることを原則とする。
 - ① はじめに（序論、諸言、まえがき等）
 - ② 対象および方法（症例紹介）：倫理的配慮を記述すること。

③ 結果

④ 考察

⑤ 結論（まとめ）

⑥ 文献：引用文献のみとして本文の引用順に並べる。本文の該当箇所の右肩に一連番号を付ける。引用文献の著者氏名が3名以上の場合、最初の2名を記載し、他は「・他」あるいは「et al.」とする。雑誌の場合は著者氏名、論文題目、雑誌名、巻、号、頁、西暦年号の順に記載する。単行本の場合は著者氏名、書名、編集者氏名、発行所名、発行地、年次、頁を記載する。

<表記例>

- ・藤田信子, 棚田康彦・他：椅子座位における側方傾斜刺激に対する頸部・体幹・四肢の筋活動—筋電図学的分析. 理学療法学, 17:27-30, 1990.
- ・Sepic,S.B,Murray,M.P,et al.:Strength and Range of motion in the Ankle in Two Age Groups of Men and Women.Am.J.Phys.Med,65:75-84,1986.
- ・真島英信, 猪飼道夫：生体の運動機能とその制御. 杏林書院, 東京, 1972, pp185-193.
- ・Junda,V.:Muscle Function Testing Butterworths, London, 1983, pp224-227.

6) 図表

原寸でそのまま掲載する（作図や縮小はしない）。図の番号および標題は図の下に、表の場合は表の上につける。本文と図表は分けて作成し、表・図・写真の挿入位置を本文の右欄外に指示する。

2. 原稿規定分量

原則として400字詰め原稿用紙20枚・8000字以内とする。

3. 文字表記

原則として現代かな使い、数字は算用数字、単位は国際単位系（SI単位）を用いる。

4. 略語

略語は初出時にフルスペルあるいは和訳も記載する。

5. 表紙頁、著者頁

執筆投稿規定

論文には表紙頁と著者頁をつける。表紙には標題、キーワード(3個)、本文ページ数、図表枚数、原稿文字数を記載する。著者頁には著者名、所属名、責任者連絡先(住所・電話番号・Emailアドレス)を記載する。表紙頁、著者頁の後に要旨・本文・図表を改めて記載する。

6. ページ番号・行番号

原稿にはページ番号(最下部中央)と本文右(または左)に5行ごとに行番号を記載する。

【原稿送付方法および連絡先】

1) 原稿送付先

原則として投稿原稿一式を1つのファイルにまとめ、

電子メールに添付して下記へ送付する。上記が不可能な場合は問い合わせすること。

2) 原稿送付先および連絡先

〒189-0024 東京都小金井市中町2-22-32

社会医学技術学院 理学療法学科

(担当者)中山雅和

TEL: 042-384-1030

FAX: 042-384-8508

E-mail: pt_tokyo_kikanshi@yahoo.co.jp

(平成31年1月31日 改定)

編集後記

早いものでもう師走は目の前です。令和7年も残り1ヶ月となります。会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。さて本号236号は全43ページで構成され、様々な部局からの報告、お知らせがございます。ぜひ全体を通じてご一読いただければ幸いです。また10月から12月までは学会シーズンとも言え会員の皆様でも参加された方もいらっしゃったのではないかと感じています。昨今では診療報酬に関する話題も増えてきており、皆様方におかれましては様々な情報収集をされていることと存じます。会員諸氏のご活躍を祈っております。(M.I.)



https://x.com/TPTA_PR2023

フォロワー 1,134

Facebook



<https://x.gd/9Ossi>

フォロワー 89

Instagram



https://www.instagram.com/tpta_pr2023/

フォロワー 588

公益社団法人 東京都理学療法士協会 正会員数

11,601名(令和7年12月1日現在)
(事務局) 〒151-0053

東京都渋谷区代々木1-58-7 ヴェラハイツ代々木201
Tel: 03-3370-9035 FAX: 03-3370-9036